

初めての国際学会。 挑戦×不安×緊張×充実＝これからの私の魅力

今日は、先日国際学会に参加した6年生にお話を伺いました。



May 18 - 21, 2013 • Orlando, FL
Exhibit Dates: May 19 - 21, 2013



石川 恵莉子 橋本 和樹
春日部共栄高校出身 東京学館浦安高校出身
(埼玉県) (千葉県)

「DDW 2013」に参加しようと思ったのは？

石川) 研究室配属の時期、「大学生活で、何かひとつやっておきたいな！」って考えていて、薬理学研究室では毎年先輩たちが海外の学会に参加しているって耳にしていたから、「ちょっとハードル高いかな？」とは思っていたけど、研究室配属が決まった時からこの学会にチャレンジすることを決めていました！

橋本) 僕は大学に入学する前から、「大学では研究したいな」って思っていて……。薬学教育が6年制になって、学びの中心は「臨床」になるってことはわかってはいたけど、それでも「研究したいな」って(笑)。だから薬理の研究室を選んだのも、自分の

中では必然でした。DDW 2013 (Digestive Disease Week; 米国消化器病学会)の前には、日本薬理学会にも参加していたんだけど、やっぱり「国際学会」にも参加してみたいなあって。

石川) 橋本くんは研究志向だったんだ(笑) 私は最初、「研究ありき」ではなかったから……。正直、卒業研究が「辛い」って思っていた時期もあって……。でも、ホント頑張った良かったなって思っています。だって、DDW 2013はホント刺激的だったし、いい経験ができたと思っているから。

「国際学会」に参加して何を感じましたか？

橋本) 月並みですが、「規模が大きいな」って(笑) それから論文の世界でしか知りえなかった海外の研究者と直接お話しができたって感動が……。

石川) ホント、研究が好きなんだね。私は「伝えようとする意志」と「伝えることの重要性」を感じたかな？正直、これも月並みだけど自分自身の「英語力」の力不足にはほとほとがっかりしちゃったけど、「伝えたい」という気持ちでなんとかコミュニケーションが成立した時もあって。でも、だからこそ帰国後も英語の勉強はしっかり継続しています！

橋本) スゴイね！僕は自分の「知識不足」を痛感したかな？学会では、自分の研究領域については少し位はコミュニケーションをとることができても、その周辺領域って言うのか、少しでも話の中心から外れた話題になると、全く話が途切れてしまって……。特に僕たちの研究って、動物系の研究が中心だけど、臨床への応用とか、それも含めた日本の医療状況とかについて問われると……。もっとしっかり勉強しなきゃって、改めて考えさせられました。

「これから」に何か活かそうですか？

石川) 正直私にとっては、今回の学会参加は「異文化コミュニケーション」って要素もあって……。

私は「ドラッグストア」への就職を考えているんだけど、語学やコミュニケーションってところは、十分就職してからこの経験が活かせるのかな？って思っています。橋本くんは、やっぱり研究志望？

橋本) そうだったんだけど……。実は、あんまり就職活動がうまくいってなくて……。やっぱり6年制からの研究職は難しいのかな？って色々と考えていたんだ。正直言うと、僕自身は対人コミュニケーションがあまり得意ではないなって思っていて……。あんまり外交的な性格でもないしね(笑) だから、自分自身が興味ある研究を将来の仕事に働くことができればいいなって思っていて……。薬剤師っていう職業人は自分にはちょっと向いてないのかな？なんて考えていた時期があったんだ。でも、今回 DDW 2013に参加して、積極的にコミュニケーションを図ることの重要や、それ以上に「伝える中身」の重要性を肌で感じたから、就活はもうちょっとしっかり考えてみようかな？って感じ始めているんだ。

石川) じゃあもう一度、研究職にチャレンジしてみるのは？

橋本) いや、、、薬剤師の仕事をもう一度考えてみようかな？って……。 (笑) もっとたくさんの知識を身につけて、患者さんのいろいろな気持ちに答えられる薬剤師になることを目指したいなって。だから、可能だったら就職した後には社会人入学で大学院にも挑戦してみようかな？って考えているんだ。そうすれば、研究にも触れることもできるし、一度社会を経験してみた上で、自分が本当に何を目標しているのかを見つめ直してみたいって思ってるね。

石川) スゴイ！エライ！研究室に配属してから、いろいろな経験を通じてたくさんのことを考えていたんだね。ホント、今回の学会参加をただの「経験」に終わらせるんじゃないかって、残りの大学生活やその先にも活かせるように頑張らないとね！

長崎 真優

磐城桜が丘高校出身
(福島県)

藍野 芙季子

幕張総合高校出身
(千葉県)



「CPhA」学術大会に参加したんですよね？

長崎) はい！ Canadian Pharmacists Association, カナダ薬剤師会の学術大会に参加してきました。昨年末に紀尾井町キャンパスで開催された、一般用医薬品セルフメディケーション振興財団のワークショップで講演をしてくださったカナダ アルバータ大学の Ross Tsuyuki 教授と臨床統計学の山村教授との共同研究に参加させていただき、日本の薬剤師の職能意識が調剤志向なのか、それとも患者志向なのかという調査研究を行い発表してきました。

藍野) 私にとっては初めての海外が、いきなりの学会発表だったから、調査研究を行っている時からずっとドキドキして……。最初は学生の間にいろいろな経験しておきたいなって思っていたけど、不安の方が大きくて……。でも、実際に薬剤師として働いている姉が、「是非、頑張ってみるべきだよ！」って背中を押してくれて……。今となっては、「チャレンジして、よかったあ〜」の一言です！

長崎) 本当に今回はこの学会に参加してみて良かったよね！この学会は「薬剤師」の学会だったから、将来の自分の姿についても、いろいろと考える機会になったよね。私は「もっと、たくさんの知識を身につけなきゃ」ってすごく感じました。もちろんカナダの医療事情や職域の違いがあるのを前提にしても、カナダの薬剤師は臨床知識がとても豊富なことには驚かされました。病院勤務ではなく、薬局勤務の薬剤師さんが、ホント知識豊富で……。私も将来は、調剤薬局で働こうかな？って考えているから、本当に多くの刺激をもらいました！

藍野) ホント、学会に参加している方々はすごいなって感じたね。たまたまカナダの大学の薬学部に短期留学されている日本人薬剤師の方と一緒にあったんだけど、調剤薬局が薬剤師研修の一環で、まさか海外留学をやっているなんて……。そんな薬局も日本にあるんだなあ〜って、ちょっと感動しちゃった。

「学会」に参加して何を感じましたか？

藍野) 私は、もっと自己表現力を磨かなきゃって。いろいろな意味で、学会で出会った方たちって「魅力的だな」って感じて……。ふと、自分って魅力的なのかな？って思っちゃいました。これまでは、どこかで「真面目が一番」とか「言われたことをコツコツやっていたら……」って思っていたけど、どこか保守的って言うのか、「チャレンジする気持ち」が陰に隠れていたのになって……。自分で判断して、自分で行動する。すごく当たり前のことだけど、もっと自信を持ってこれから生活していかなきゃって。

長崎) でも、ホント素敵なお方が多かったね。イクメンも多かったし(笑)あと、ホスピタリティの精神って言うのは、本当に嬉しかったよね。案の定、英語でのコミュニケーションは力不足で、拙い私たちの英語を、皆さん一生懸命に耳を傾けてくれていて、

「他人を理解しよう」っていう気持ちがすごく伝わってきて……。これって、これから私たちが薬剤師を目指す上でも必要なことってことは、頭ではわかっているんだけど、毎日の生活で「実践できているの？」って振り返ると、「はい！」って自信を持って答えられない自分がいて。藍野さんという「魅力的」って、すごくわかるな！「強さと優しさを兼ね備えた」って感じの「魅力的な方」が本当に多かったね！

「経験」をどこに活かしますか？

藍野) 私は将来、病院薬剤師として働こうと考えています。この学会では「薬局薬剤師」についての研究やレクチャーが多かったけど、知識やエビデンスで病院薬剤師としても応用可能な部分は自分でしっかりと咀嚼して、将来活用できるように準備できればいいなって思っています。あと、大学でも専門職連携について学習しているけど、自分が多方面のスキルや知識を持つ万能タイプの薬剤師になるのではなく、しっかりと多職種と連携できる薬剤師を目指したいなって気持ちになりました。もちろんそのためには、これから自分のバリアーを破って、いろいろなことにチャレンジすること！そんな毎日過ごすことこそが、この経験が「活かしている」ってことになるのかなって。

長崎) 私は、もっと世界に目を向けたいなって本気で思いました。可能だったら将来、海外留学もしたいなって。まだ学生で、薬剤師にもなっていないに……。って自分自身、ちょっと背伸びしているのかな？って思うけど、やっぱり「海外で働きたい」って気持ちが強いんだ。「海外に行って、具体的にどういう風に医療で社会貢献できるの？」って聞かれたら、今はまだ答えが見つからないけど、自分なりに納得する答えを見つけ出せるように、これからしっかりと頑張っていきたいと思っています！

